

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 西淀川区  
学校名 出来島小学校  
学校長名 奥田 謙司

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・出来島小学校では、第6学年 31名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率について、国語科は58%（大阪市65、全国66.8）、算数科は49%（大阪市58、全国58）、理科50%（大阪市55、全国57.1）であったが、毎年調査している国語科は昨年度より4ポイント、算数科は2ポイント向上し、学力の向上が見られた。

また平均無回答率（問題に何も回答しなかった割合）についても、国語科2.3%（大阪市2.8、全国3.3）、算数科1.8%（大阪市3.3、全国3.6）、理科1.7%（大阪市3.0、全国2.8）となり、全教科において1問でも多く回答しようとする児童の粘り強さが表れる結果となった。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

国語科の正答率では、知能・技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」78.6%（大阪市77.1、全国76.9）、「情報の扱い方に関する事項」64.3%（大阪市60.4、全国63.1）、「我が国の言葉文化に関する事項」78.6%（大阪市79.9、全国81.2）となり大阪市や全国平均と同等以上であったが、思考力・判断力・表現力における「話すこと・聞くこと」44.0%（大阪市64.0、全国66.3）、「書くこと」58.3（大阪市66.7、全国69.5）、「読むこと」50.0%（大阪市56.9、全国57.5）となり、両平均より大きく下回る結果となった。本校ではここ数年、校内研究教科を国語科とし、学力向上支援チーム事業における重点支援校として、学びコラボレーターやスクールアドバイザーによる児童への直接指導、教員への学力向上研修会等に積極的に取り組んでいるが、まだまだ両平均を超える学力には至っていない。

同様に、算数科では「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの利用」のすべての領域において、理科では「エネルギー」以外、「粒子」「生命」「地球」の領域において、両平均とも下回っており、引き続きの学力向上支援が必要な状況である。

質問調査より

児童質問における「人が困っているときは進んで助けていますか」「いじめはどんな理由があってもいいことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「友達関係に満足していますか」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがありますか」の5項目において、肯定的な回答が100%となり、学校生活や家庭生活で有意義に過ごすことがとても多いことが分かった。また「あなたの家では主に何語で話していますか」の項目においては、大阪市・全国平均とも2%弱であったのに対し、本校は10.7%と高い数値となった。

しかしながら、本校が本年度より取り組みを強化して読書について、「読書は好きですか」の項目における肯定的な回答が75%であったので、引き続き取り組みを進めていく。

## 今後の取組(アクションプラン)

まずは読書をはじめとする「読み（読解力）・書き（文字力）・そろばん（計算力）」と呼ばれる基礎学力の定着に努めていく。特に計算力については、日々の積み重ねが大きな効果を生むので、100マス計算のように実際に自分で鉛筆を動かす活動と並行して、PCを使ったスピード計算も授業の中に取り入れていく。

また今後導入されていく全国学力調査におけるオンライン回答に向けて、児童のタイピング入力のスキル向上を図っていく。具体的には、日々の学習での文字入力活動をより多く取り入れるとともに、校内外でのタイピンググランプリにも低学年から積極的に取り組み、前述の基礎学力の4つ目として、学校全体で実践を進めていく。